

# ロボ操作向上へ 6基を導入

## 人材育成 能登の産業支援

七尾市の県立七尾産業技術専門学校は、産業用ロボットを操作する人材の育成に向け、食品の箱詰めや精密機械の生産などに使われるアーム型ロボット6基を導入した。中能登地区の企業を対象にしたアンケート調査で、産業用ロボットの制御技術者の育成を望む声が多かったことに対応した。同校はカリキュラムの充実も図っており、中能登の産業支援につなげる。

同校は昨年4月、産業用ロボットについて学ぶ計測制御技術科を生産設備保全科に改称し、同科の生徒が先月中旬から新しいアーム型ロボットを使って学習に取り組んでいる。

ロボットは高さ約80センチ

で、プログラムを入力すると組み立て、溶接、塗装、検査などができる。工場などで実際に使われているロボットと同じ性能となっている。これまでは同校に小型アームロボット1基があったが、動きの確認ができ



産業用ロボットを使った授業

＝県立七尾産業技術専門学校

県立七尾産業  
技術専門学校

## 地元企業の要請受け

るだけだった。

同校が2013、14年に2回、中能登地区の企業約50社に聞き取り調査を実施したところ、「現場で即戦力となるロボット制御の技術訓練を行ってほしい」という要望が多かった。

これを受けて、改称した生産設備保全科では、産業用ロボットを本格的に導入したほか、約1カ月間の企業研修も始めるなどカリ

キュラムの充実を図った。生産設備保全科の定員は10人で、新年度の入学は3月3日まで募集を受け付けている。田島義久校長は、教育環境を充実させ、能登の未来を担う優良な技術者を輩出したい」と話した。